

日 時：令和5年7月20日(木) 14:30～16:15

場 所：戸田地区センター 大会議室

資 料：次第、資料1-1、資料1-2、  
資料2-1、資料2-2、資料2-3

## 1 開会

## 2 議事

### 令和4年度の実績評価

事務局より、基本目標及び事業進捗（資料1-1、1-2、2-1、2-2、2-3）について説明

#### 【委員からの意見の概要】

- ・ 多くの方に移住してきてもらうために、市として取り組んでいることは何か。  
→ （政策企画課：回答）都内では移住フェアを開催している。また、移住希望者のオンライン相談を実施しており、1日で数件の相談に応じることもある。
- ・ 空き家がたくさんあるので、例えば永住する場合には補助金を出すなどすると、より移住者が増えるのではないか。  
→ （政策企画課：回答）まちづくり指導課の空き家バンクと当課の移住定住推進とで連携を図っていきたい。
- ・ 戸田に限った話ではないが、平均年齢が高くなっている。若者の転出は目立つし、もっと職があればなど感じる。
- ・ 移住者数が増えているが、こういった属性の方が移住してきているのか。  
→ （政策企画課：回答）全年代での転入者は78人であり、0歳～95歳の方がいる。内訳としては、単身世帯と一般世帯が約半数ずつである。一般世帯では、20代、40代、50代の夫婦が目立っているが、30代では転入以上に転出が目立っている。
- ・ 戸田に転入してきた方との交流等はあるのか。なぜ転入してきたかなどの移住の理由を聞いておくことが良いと思う。
- ・ 戸田はとにかく交通の便が悪い。支援もあるが、100%ではない。最近はコンビニエンスストアができたのでまだいいが、スーパー等が乏しく買い物が大変である。また、子どもの高等学校進学に合わせて戸田地区外に居住するケースが多くある。特に、子育て世帯は、部活動をやっている子どもの送迎を戸田からするのは大変である。

- ・ 昔は下宿先が数多く存在したので困ることはなかった。
  - ・ 高齢者についても、戸田診療所を運営してもらっているが、やはり大きな病院がないために転出するケースもある。
  - ・ 宿泊施設については、後継者不足や施設の維持管理問題で閉店する施設が多くある。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、宿泊施設数自体が減っていることから、宿泊者数も減っている。そのような中でも、今までにない新たな発想を取り入れた宿泊施設もできたりしている。地元にはない、外部の発想の取入れは良いことである。
- （政策企画課：補足）宿泊者数は、平成18年度の15万人をピークに減り続け、現在では10万人弱となっている。
- ・ 築50年以上の造船郷土資料博物館の建替えについては、集客効果があると思う。
  - ・ 戸田の観光については、調べてもなかなか出てこないといったこともある。そういったPR面は大事である。PRは組織的に行うと良い。
  - ・ 移住者を増やすのはもちろん大事なことであるが、どうしても人口は減っていくので、そういったことも勘案しつつ、交流人口をいかに増やしていくか、そしてそこからどう移住に繋げていくかということが大切である。
  - ・ 今後とも継続的にこういった検討の場を設けられたら良い。

### 3 閉会